

第6学年 算数科指導案

日 時：
場 所：小学校 6年生教室
授業者：

1. 単元名「分数のかけ算」

2. 単元の目標

- (関)乗数が分数の乗法の計算の意味を理解し、より進んだ数学的な考え方や処理のしかたを生みだそうとする意欲をもつ。
- (考)乗数が分数である場合の乗法の計算のしかたを、分数の性質や既習の計算をもとに考え、説明することができる。
- (技)乗数が分数である場合の計算ができる。
- (知)・分数の乗数の意味や計算のしかたを理解する。
・分数の場合でも、面積、体積を求める公式や計算のきまりが成り立つことを理解する。
・被乗数と積との大小関係について理解する。

3. 指導にあたって

(1) 教材観

この単元に関わって、学習指導要領には、以下のように、述べられている。

<p>A(1) 分数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、それらを用いることができるようにする。</p> <p>ア 乗数や除数が整数や小数である場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が分数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。</p> <p>イ 分数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</p> <p>ウ 分数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p> <p>〔算数的活動〕</p> <p>ア 分数についての計算の意味や計算のしかたを、言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動</p> <p>A(2) 小数及び分数の計算の能力を定着させ、それらを用いる能力を伸ばす。</p>
--

児童は、5年生までに、乗数が整数である場合の分数の乗法について学習してきている。本単元では、乗数が分数である場合の乗法の計算のしかたを考えて、それらの計算をできるようにすることが主なねらいである。計算については、真分数をはじめ、仮分数や帯分数を含むものも指導する。本単元は、大きく3つの内容からなっている。

1つ目は、既習の整数や小数の計算の考え方を基にして、乗数が分数の乗法の意味を理解できるようにすることである。児童は、5年生で「分数×整数」「分数÷整数」の学習をしてきた。それらを基にして、「分数×整数ならできるから。」「数直線図では比例の関係が使えるから。」などの根拠をもって立式できるように、ていねいに扱いたい。

2つ目は、既習の整数や小数の乗数や分数に整数をかける乗法の考え方を基にして、乗数が分数の計算の仕方を考え、計算ができるようにすることである。分数の乗法の計算の仕方は、計算の性質を用いて、既習である分数×整数、分数÷整数の形に帰着することができる。計算の仕方を考える場合は、自分の考えを、面積図や数直線図、式に表したり、乗法の計算の性質を説明したりする算数的活動を行い、思考力・判断力・表現力を伸ばすようにしたい。

3つめは、分数の乗法の計算の性質を理解できるようにすることである。乗法の交換法則、結合法則や分配法則が分数の場合でも成り立つことを、面積図で調べるなどていねいに扱い理解を深めたい。

(2) 児童の実態(男子8人 女子11人)

単元「分数のたし算とひき算」の準備テストの結果は、以下のようであった。(19人中)

問題のねらい	正答人数	多かった誤答など
少数をかける計算になる場合で、数量の関係を数直線に表し、立式することができるか。	数直線 17 式 15	小数を誤った分数にしている。計算をして答えを出している。
分数の乗法において、立式して答えを求めることができるか。(真分数×整数)	式 16 答え 14	わり算にしている。 約分をしていない。乗数を分母にかけている。
分数の乗法において、立式して答えを求めることができるか。(帯分数×整数)	式 17 答え 11	帯分数を仮分数に、仮分数を帯分数に正しく直せていない。 約分が正しくできていない。
分数×整数の計算ができるか。6問	平均 13	帯分数を仮分数に、仮分数を帯分数に正しく直せていない。 仮分数を帯分数に直していない。

この結果から、約分をすることと帯分数を仮分数に、仮分数を帯分数に直すことの技能が十分でない児童がいることが分かる。本単元の学習内容に関わる大切な内容なので復習の時間を取り理解を深める。その際には、面積図や数直線図を使って、行っている操作の意味を視覚的に再確認できるようにする。また、立式についてのつまづきには個別に指導をしたい。学習には真面目に取り組めるが、自分の考えを進んで発言しようとする姿勢が弱い児童が多く、挙手・発言を続けて、話し合いで考えを深められるように取り組んでいる。

4. 研究主題に関わって

(1) 思考力・判断力・表現力のとらえの明確化と、それを高めるための学習過程の工夫(研究内容)

本時の思考力・判断力・表現力を、次のようにとらえた。また、それらを高めるために手立てを次のようにする。

【判断力】

解決の見通しや解決の過程、その結論の正否を明確な根拠をあげて論理的・合理的に導き出す力

【思考力】

課題を結論に導く過程に働く、考えを進める数学的な考え方や、解決の手法としての数学的な考え方を活用して自分なりの結論を導き出す力

【表現力】

数学的な用語、記号などを用いて、問題の解決過程における考え方や処理の仕方や結果を分かりやすく表したり、説明したりする力

【本時の判断力】

計算の途中で $\frac{4}{5}$ を3でわって考えたり、 $\frac{2}{3}$ に3をかけたりするとよい訳を、既習内容につなげて考えられること。
問題の1つ目の考え方と同じように、問題の2つ目を、式で筋道立てて考えられること。

【本時の思考力】

既習の分数×整数や分数×少数のときの計算のしかたを想起し、数直線図や乗法の計算の性質をもとにして考えれば計算できそうだと解決の見通しをもてること。
キーワード「分母どうし、分子どうし」を使って、まとめを自分の言葉で書けること。

【本時の表現力】

自分なりの考えを、図や数直線図、式で表現できること。
順序だてて計算の手順を話す意識をもち、自分の考えを説明できること。

【判断力を高める手だて】

磨き合う場での判断をせまる場を位置付ける。(4)

判断力を高める手立て(4)

・ $\frac{4}{5}$ を3でわって考えている児童や、 $\frac{2}{3}$ に3をかけて考えている児童には、「どうして、その計算をしたのか。」と問い返しをして、考えの根拠を説明できるように求める。また、既習の考え方を活用して考えを進めたよさを価値付ける。

2つ目の問題を位置付け、そこから有効性の判断をし、一般化させる。(5)

判断力を高める手立て(5)

・問題の2つ目でも「式で同じように考えられることができるか。」と投げかけてから取り組ませる。また、解決できた児童には、一般化するための問題を自分で考えるように助言する。

【思考力を高める手だて】

既習を想起させ、比べること(似ていることや違うところ)で、解決方法を導き出せるようにする。(1)

思考力を高める手立て(1)

・既習の分数×整数や分数×少数のときの計算のしかたを想起させ、数直線図や乗法の計算の性質をもとにして考えれば計算できそうだと解決の見通しをもたせる。

振り返りの場でのより確かな実感・納得へ導き出せるようにする。(6)

思考力を高める手立て(6)

・板書で、「分母どうし、分子どうし」それぞれかけることを、キーワードとして全員で確認する。

【表現力を高める手だて】

言葉や図、式で表現する活動を位置付け、考えを表現させる。(2)

表現力を高める手立て(2)

・個人追究で歩み出せない児童には、教科書P.34の数直線図を示して、 $\frac{1}{3}dL$ をもとにして考えることを想起させ、一緒に考えた後、このことを式で表してごらんと、式で考えを進めていけるように助言する。
数学的な表現を明確にする。また、ペア交流を位置付け、相手意識をもたせたり、相互評価させたりする。(3)

表現力を高める手立て(3)

・ペア交流を位置付けて、順序だてて計算の手順を話す意識をもたせながら、どの子にも1度は自分の考えを説明する時間を位置付ける。

(2) 内容の系統性を明確にした単元指導計画の作成(研究内容)

単元指導計画参照

(3) 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習活動と評価の工夫のあり方(研究内容)

一単位時間の終末における指導の工夫

授業の終末に、練習問題に取り組み、学習内容を確かにする活動を位置付けたい。P.35 鉛筆問題²は、板書を参考にして計算の途中の式を明記するように指示をし、どの児童も自力解決ができることを目指す。P.35 鉛筆問題²が終わった児童は、用意してある答えを見て自分で答え合わせをする。その後、P.214 計算練習¹に取り組む。P.214 計算練習¹は、教科書の解答を見て自分で答え合わせを行う。教師は、計算に抵抗を感じている児童(NY男・AT女など)を中心に、指導援助を行う。両方の練習問題ができた児童は、自分で問題を作る取り組みをさせたい。

実態把握から定着の弱さを補充する時間の位置付けの工夫

単元「分数のたし算とひき算」の準備テストの結果から、約分をすることと帯分数を仮分数に、仮分数を帯分数に直すことの技能が十分でない児童がいることが分かった。朝学習の時間に、復習の時間を取り理解を深める。その際には、形式的な計算の方法だけではなく、面積図や数直線図を使って、計算の意味を再確認できるようにする。また、立式のできない児童については休み時間などを使って一人一人のつまづきを把握した上で支援をする。

5 単元指導計画

第6学年「分数のかけ算」全10時間

A:「知識・技能の定着を図ることに重点を置く授業」 B:「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力などを育むことに重点を置く授業」

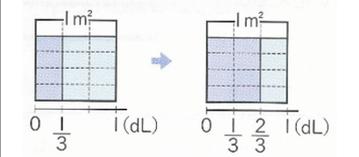
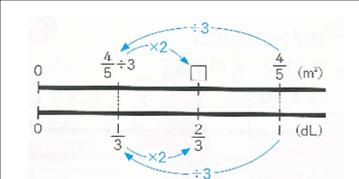
小単元 時	引き出す授業		高めていく授業		
	1	2 (本時)	3	4	5
ねらい	乗数が分数の場合でも乗法の式に表してよいことを、整数の場合からの類推や数直線図をもとにして考え、説明することができる。	分数×分数の計算を、数直線図や乗法の計算の性質をもとにして考える活動を通して、分母どうし、分子どうしをそれぞれかければよいことに気づき、分数×分数の計算のしかたを考慮することができる。	積を約分する方法と計算の途中で約分する方法を比較・検討をする活動を通して、計算の途中で約分して積を求める計算のしかたを考慮することができる。	整数×分数の計算は分数×分数にしても計算できることを理解する。また、3の分数の計算のしかたを理解することができる。	分数の乗法の計算をすることができる。また、それを活用して問題を解決することができる。
授業展開	B	B	B	A	A
主な つまずき	立式することができない。	1/3dLに着目したり、整数の計算に帰着したりすることができない。	約分を正しくできない。	整数部分を分子にかけると分母にかけると混乱する。	既習事項を使って問題を解くことができない。
主な つまずき への 指導援助	教科書のしょうたさんの考え方を示し、数直線図を用いて2/3倍の大きさを求める演算を確認し式に表すように助言する。	教科書のゆうとさんの考え方を、図と数直線図と比べ合わせながら考えるように助言する。	約分のやり方を確認し、分母、分子をどの同じ数で割ればよいかをみつけられるように助言する。	整数を分母が1の分数に直して計算するように助言する。	教科書、ノート、掲示などで振り返り、問題の意味を確認する。
主な 学習 活動	問題を提示する 1dLで4/5mの板をぬれるペンキがあります。このペンキ2/3dLでは、何mの板をぬれるでしょう。 課題を確認する 2/3dLでぬれる面積を求める式を考えよう。 個人追究をする 「ことばの式」から考える。使ったペンキの量が整数で表されている場合の式から考える。2/3dLでぬれる面積をとして数直線図に表し、比例の関係から考える。 確認すること 数直線図では、2つの数量は比例の関係にあること。 まとめる 使った数量が分数で表されていても、ぬれる面積を求めるには、整数や小数のときと同じようにかけ算を使います。	問題を提示する (前時の振り返りから、式の確認をする) 課題を確認する 4/5×2/3のような分数×分数の計算のしかたを考えよう。 個人追究をする 数直線図や面積図をもとにして、1/3dLでぬれる面積を求めてから、2/3dLでぬれる面積を求める。乗法の計算の性質を使って、既習の乗法に直してから、2/3dLでぬれる面積を求める。 確認すること それぞれの計算は同じ式になること。 まとめる 分数×分数の計算は、分母どうし、分子どうしをそれぞれかけると計算できます。 練習に取り組む 教科書P35 ② 教科書P214 計算練習③	問題を提示する 1dLで5/12mの板をぬれるペンキがあります。このペンキ9/10dLでは、何mの板をぬれるでしょう。 課題を確認する 5/12×9/10のような、約分ができそうな、分数×分数の計算の仕方を考えよう。 個人追究をする 積を約分して考える。計算の途中で約分して考える。 確認すること 分数×整数のときと同じように、計算の途中で約分していること。「途中で約分」すると早く簡単に計算できること。 まとめる 5/12×9/10のような分数×分数の計算も、分数×整数のときと同じように、途中で約分して計算すれば、早く・簡単に計算することができます。 練習に取り組む 教科書P35 ①	問題を提示する 2×4/5 3/4×1/5×5/6 課題を確認する 整数×分数は、分数×分数としても計算できることを説明しよう。 個人追究をする 2を分母が1の分数とみて、2/1×4/5として計算する。2/1×4/5を、分母どうし、分子どうしをそれぞれかけて計算する。 確認すること 分数×整数の計算も分数×分数の計算に統合できること。3口の計算では、まとめて約分することができること。 まとめる 整数×分数は、分数×分数としても計算できます。三つの分数の乗法も、分母どうし、分子どうしをそれぞれかけると計算できます。 練習に取り組む 科書P36 ④ ⑤	問題を提示する (教科書P37) 課題を確認する 練習しよう。 個人追究をする 答えを印刷準備しておき、自己採点できるようにしておく。教科書の問題が確実にできた児童は、補充問題に取り組む。
	評価規準	分数をかける意味を、整数の場合からの類推や数直線図をもとにして考えている。【考え方】	分数×分数の計算の仕方を、数直線図や乗法の計算の性質などをもとにして考えている。【考え方】	分数×整数の計算の約分のしかたをもとに、分数×分数のときも途中で約分することを考えている。【考え方】	整数×分数の計算は分数×分数にしても計算できるや、3の分数の計算のしかたを理解している。【知識・理解】

小単元 時	高めていく授業 6	7	生かす授業 8	9	10
ねらい	面積図をもとにして考えることにより、辺の長さが分数の場合でも、面積や体積の求積公式が適用できることを理解する。	面積図をもとにして確かめることにより、1と $2/5 \times 2$ と $1/3$ のような、帯分数 \times 帯分数の計算のしかたが分かり、計算できる。	数量の関係を数直線図で調べることがをとうして、分数をかける乗法は、乗数の大きさから積と被乗数の大小関係を判断することができることを理解している。	長方形の面積図を調べることとおして、分数の場合にも、乗法の交換法則、結合法則や分配法則が成り立つことの意味を深める。	基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。
授業展開	A	B	A	B	A
主な つまづき	辺の長さが分数で表されている面積のイメージがもてない。	整数どうし、分数どうしをかけて計算している。	かけ算をすると答えが大きくなるとらえている。	分配法則の意味が理解できていない。	既習事項を使って、問題を解くことができない。
主な つまづき への 指導援助	教科書 P38 の図をみせ、板の面積が $1/28$ のいくつか分になるのか考えるように助言する。	教科書の図をみせ、計算が図のどの部分を表しているか考えるよう助言する。	教科書の数直線図をみせ、それぞれの積が200のどちら側にあるかを気づかせる。	分配法則を表した面積図をみせたり、具体的な整数を当てはめさせたりして、意味を理解させる。	教科書、ノート、掲示などで振り返り、問題の意味を確認する。
主な 学習 活動	<p>問題を提示する 縦 3/4m、横 5/7m の長方形の板があります。この板の面積は何㎡でしょう。</p> <p>課題を確認する 縦の長さや横の長さが分数で表された長方形の面積の求め方を考えよう。</p> <p>個人追究をする 面積の公式を適用して、面積を求める。 面積図をもとにして、$1/28$ のいくつか分で考える。</p> <p>確認すること 面積図をもとにして考えた答えと、面積の公式を適用して求めた答えが同じなので、公式が適用できること。</p> <p>まとめる 図形の辺の長さが分数で表されていても、面積や体積を求める公式が使えます。</p> <p>練習に取り組む 教科書 P 38 ㉠1 ㉠2</p>	<p>問題を提示する 縦 1と$2/5$m、横 2と$1/3$m の長方形の形をした花だんがあります。この花だんの面積は何㎡でしょう。</p> <p>課題を確認する 1と$2/5 \times 2$と$1/3$のような、帯分数\times帯分数の計算のしかたを考えよう。</p> <p>個人追究をする 帯分数を仮分数になおして、分母どうし、分子どうし計算する。 面積図をもとにして4つの部分に分けて計算して、最後にたし算をする。</p> <p>確認すること 整数部分と分数部分に分け、それぞれかけると面積が足りなくなるので積が正しくないこと。</p> <p>まとめる 帯分数\times帯分数の計算は、帯分数を仮分数に直して計算します。</p> <p>練習に取り組む 教科書 P 39 ㉠3</p>	<p>問題を提示する 1m の値段が 200 円のリボンがあります。このリボン 1と$2/3$m と$3/5$m の代金を求め、それぞれ 200 円と比べましょう。</p> <p>課題を確認する 分数をかける計算で、かけられる数と積の大きさを比べよう。</p> <p>個人追究をする それぞれの計算をして、かけられる数 200 と積との大小を比較する。 代金を で表した数直線図をもとにして、かけられる数 200 と積との大小を比較する。</p> <p>確認すること 分数\times分数のときも、小数のときと同じように、かける数の大きさから積とかけられる数の大小関係を判断できること。</p> <p>まとめる 小数のときとおなじように、かける数 > 1 のときは、積 $>$ かけられる数 かけられる数 = 1 のときは、積 = かけられぬ数 かける数 < 1 のときは、積 $<$ かけられる数になる。</p> <p>練習に取り組む 教科書 P 40 ㉠1 ㉠2</p>	<p>問題を提示する a, b, c が分数のときにも、うのきまりが成り立つかどうかを 図でたしかめましょう。</p> <p>課題を確認する かけ算の計算のきまりが、分数のかけ算でも成り立つのかを調べよう。</p> <p>個人追究をする 面積図をもとにして、面積の合計を考える。 具体的な分数を代入して、きまりが成り立つことを確かめる。</p> <p>確認すること 計算のきまりを使うと、工夫して計算ができること。</p> <p>まとめる 整数や小数のかけ算のときに成り立つ計算のきまりは、分数のかけ算でも成り立ちます。</p> <p>練習に取り組む 教科書 P 41 ㉠1</p>	<p>問題を提示する (教科書 P42, 43)</p> <p>課題を確認する まとめの練習をしよう。</p> <p>個人追究をする 答えを印刷準備しておき、自己採点できるようにしておく。 教科書の問題が確実にできた児童は、補充問題に取り組む。</p>
評価規準	辺の長さが分数の場合でも、面積や体積の求積公式が適用できることを理解している。【知識・理解】	帯分数 \times 帯分数の計算のしかたを、面積図をもとにして考えている。【考え方】	分数をかける乗法で、乗数の大きさから積と被乗数の大小関係を判断することができることを理解している。【知識・理解】	分数の場合にも、乗法の交換法則、結合法則や分配法則が成り立つことを理解している。【知識・理解】	分数の乗法の計算ができ、それを活用して問題を解決することができる。また、乗法の計算法則を計算の工夫に用いることができる。【技能】

6 本時のねらい

$4/5 \times 2/3$ のような分数×分数の計算を、数直線図や乗法の計算の性質をもとにして考える活動を通して、分母どうし、分子どうしをそれぞれかければよいことに気づき、分数×分数の計算のしかたを考えることができる。

7 本時の学習展開 (2/10)

過程	学習活動	指導・援助
見付ける	<p>1 前時の学習を振り返り、$4/5 \times 2/3$ と既習の式を比べることで、分数×分数の計算のしかたを考えるという課題を見付ける。</p> <p>前の時間の学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間の式は、$4/5 \times 2/3$ です。 ・今までは、かける数が整数や小数だったけれど、今回は、かける数が分数になっています。 ・図や数直線図、式で考えられそうです。 <p>$4/5 \times 2/3$ のような分数×分数の計算の仕方を考えよう。</p>	
考える	<p>2 図や数直線図、式で考えられそうだという見通しをもち、個人追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図で考える。 ・かける数を整数に直して考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>4/5dL を3でわって1/3dL でぬれる面積を求めてから2倍する。 答え 8/15 m²</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> $\frac{4}{5} \times \frac{2}{3} = \square$ $\frac{4}{5} \times \frac{2}{3} = \frac{4 \times 2}{5 \times 3} = \frac{4 \times 2}{5 \times 3}$ <p>かける数に3をかけて2にして計算する。そのあと、3でわる。</p> <p style="text-align: right;">答え 8/15 m²</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>$4/5 \div 3 = 4/15$ $4/5 \times \frac{2}{3} = (\frac{4}{5} \div 3) \times 2$</p> <p>$4/15 \times 2 = 8/15$ $= \frac{4}{5 \times 3} \times 2$</p> <p>答え 8/15 m² $= \frac{4 \times 2}{5 \times 3}$</p> </div>	<p>思考力を高める手立て(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の分数×整数や整数×少数の計算のしかたを想起させ、数直線図や乗法の計算の性質をもとにして考えれば計算できそうだと解決の見通しをもたせる。 <p>表現力を高める手立て(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人追究で歩み出せない児童には、教科書P.34の数直線図を示して、1/3dLをもとにして考えることを想起させ、一緒に考えた後、このことを式で表してごらんと、式で考えを進めていけるように助言する。 <p>表現力を高める手立て(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア交流を位置付けて、順序だてて計算の手順を話す意識をもたせながら、どの子にも1度は自分の考えを説明する時間を位置付ける。
磨き合う	<p>3 ペア交流を位置付け、自分の考えをより深める。</p> <p>4 全体交流をして、よりよい考え方を追究する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>図、数直線、式で考えると、2/3dLでぬれる量が求められそうだ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>計算しないで式のままにすると、どの考え方も同じ式になりそうだ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>分母どうし、分子どうしをそれぞれかければ簡単に計算できそうだ。</p> </div> </div>	<p>判断力を高める手立て(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/5を3でわって考えている児童や、2/3に3をかけて考えている児童には、「どうして、その計算をしたのか」と問い返して、考えの根拠を説明できるように求める。また、既習の考え方を活用して考えを進めたよさを価値付ける。
振り返る	<p>5 有効性の判断をして、一般化するための問題を位置付ける。</p> <p>問題 $\frac{3}{7} \times \frac{2}{5}$ の積が $\frac{4 \times 2}{5 \times 3}$ で求められることを、説明しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $\frac{3}{7} \times \frac{2}{5} = \left(\frac{3}{7} \div 5 \right) \times 2$ $= \frac{3 \times 2}{7 \times 5}$ </div> <p>6 分母どうし、分子どうしをそれぞれかけていることを確かめ、自分なりに得た結論をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>$4/5 \times 2/3$ のような分数×分数の計算では、分母どうし、分子どうしをそれぞれかけます。</p> </div> <p>7 練習問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P35 鉛筆問題②に取り組む。 ・P214 計算練習③に取り組む。 ・自分で作った問題に取り組む。 	<p>判断力を高める手立て(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の2つ目でも「式で同じように考えることができるか」と投げかけてから取り組ませる。また、解決できた児童には、一般化するための問題を自分で考えるように助言する。 <p>思考力を高める手立て(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書で、「分母どうし、分子どうし」それぞれかけることを、キーワードとして全員で確認する。 <p>評価規準【考え方】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分数×分数の計算の仕方、数直線図や乗法の計算の性質などをもとにして考えている。【考え方】</p> </div> <p>☆数直線図と式の方法を比較・検討して結びつける活動の中で、根拠を明らかにして、より論理的に考えることができる。(行動力)</p>